

町 内 遺 跡 VI

2 0 1 9

宮 崎 県 西 諸 県 郡
高 原 町 教 育 委 員 会

序 文

本書は高原町教育委員会が、国・県の補助金交付を受けて実施した埋蔵文化財発掘調査報告書です。

高原町は霊峰高千穂峰をいただく、神話と歴史にあふれた町です。特に「高原」という地名は「高天原」から転化したと言われており、町内各所に神話にまつわる地名が残されています。高原町は初代天皇である神武天皇の御降誕地であり、また若年期に過ごされたという伝承をもつ場所としても名高い町であります。

高原町では各種開発に対し、埋蔵文化財の保護を目的とする試掘調査を行っており、協議における基礎資料としています。

今回の調査で得た様々な成果が、文化財行政の一資料としてだけでなく、学校教育や生涯学習の場で活用され、埋蔵文化財の保護に対する認識と理解の一助になることを期待しています。

最後になりましたが、この発掘調査にあたり、多大なる御理解と御協力をいただきました土地所有者の方や周辺住民の方々をはじめ、御指導・御援助をいただきました関係諸機関の方々に心から御礼を申し上げます。

平成31年3月

高原町教育委員会
教育長 西田 次良

例 言

- 1 本書は、高原町が平成30年度に国宝重要文化財保存整備費補助金及び宮崎県埋蔵文化財緊急調査補助金を受けて実施した埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 補助事業の事業主体は高原町、調査主体は高原町教育委員会である。
- 3 調査の目的は、高原町大字後川内のソーラーパネル設置に伴う試掘調査である。
- 4 現場における記録写真撮影及びトレンチの配置図・土層柱状図の作成・作図、調査概要の作成は玉谷が行った。
- 5 本報告書の執筆・編集は玉谷が行った。
- 6 写真撮影についてはNIKON D850で撮影を行った。
- 7 各種記録類は、高原町教育委員会で保管している。

本文目次

試掘調査の概要

第1章 序説

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査組織	1
第3節 遺跡の立地と環境	1
第2章 調査の方法、概要	4

挿図目次

第1図 遺跡分布図	2
第2図 調査区位置図	3
第3図 トレンチ配置図	3
第4図 各トレンチ土層柱状図	4

写真目次

1 調査区近景（北から）	5
2 調査区遠景（大迫遺跡方向から）	5
3 トレンチ掘削状況	5
4 トレンチ精査状況	5
5 T 1 土層堆積状況（1）	5
6 T 1 土層堆積状況（2）	5
7 T 2 土層堆積状況（1）	5
8 T 2 土層堆積状況（2）	5
9 T 3 土層堆積状況	6
10 T 4 土層堆積状況	6
11 調査区内出土（現代）	6
12 埋め戻しの様子	6
13 転圧の様子	6
14 作業状況	6
15 作業後の様子（T 1）	6
16 調査終了（北から）	6

第1章 序説

第1節 調査に至る経緯

平成30年12月13日、当該地域での開発行為を予定している業者から、周辺の埋蔵文化財包蔵地について事業照会を受けた。同日、詳細分布地図及び分布調査資料を確認したところ、周知の埋蔵文化財包蔵地「大迫遺跡」の隣接地である旨回答を行った。同12月21日、施工を行うため、事前の試掘調査依頼があった。平成31年1月14日付で地権者同意書を受け付け、工事対象面積852㎡に対し、トレンチ法による試掘調査を実施した。調査日は平成31年2月1日である。

第2節 調査組織

調査主体者 宮崎県高原町教育委員会

教育長 西田 次良

教育総務課長 水町 洋明

社会教育係長 中原 圭一郎

社会教育係 主任主事 玉谷 鮎美（庶務担当）

調査担当者 社会教育係 主任主事 玉谷 鮎美

発掘作業員 井上 芳人 上村 勝雄 谷山 龍人 原田 賢雄（50音順）

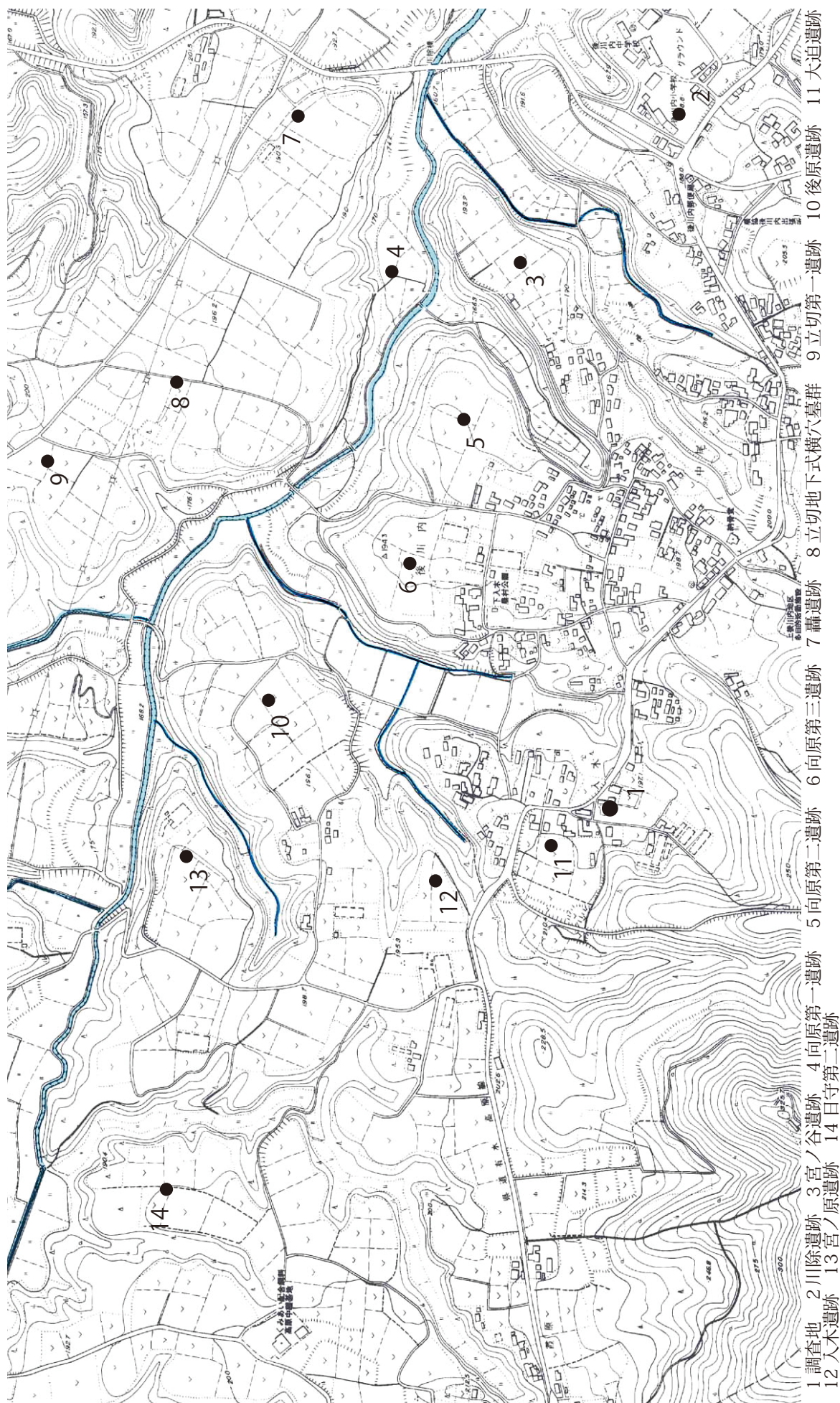
第3節 遺跡の立地と環境

高原町は宮崎県の南西部に位置し、小林市、都城市、鹿児島県霧島市に隣接している。東西約18km、南北約10kmと東西に長く、面積は85.39km²であり、韓国岳（標高1,700m）、新燃岳（1,421m）中岳（1,332m）、高千穂峰（1,574m）等を中心とする霧島火山群の東麓にある。高原町の台地は火山灰により形成されたシラス台地上にある。シラスは約29,000年前に現在の鹿児島県の錦江湾付近（始良カルデラ）から噴出した火山灰で「始良丹沢（AT）火山灰」「始良大隅軽石」「入戸火砕流堆積物」等で構成されており、その厚さは厚いところでは約20mにもなる。さらにその後も、霧島火山群から多種の火山灰が噴出し、霧島小林軽石、牛のすねローム下部、鬼界アカホヤ火山灰、牛のすねローム上部、御池軽石、高原スコリア（霧島大谷4～6テフラ）等が降下しており、高原町を覆っている。これらの火山灰は地層の年代を特定するための鍵層となっている。

当該地周辺も入戸火砕流が堆積した台地上に立地しており、標高は約197mである。遺跡は南にある霞ヶ丘から北方向の谷に向かって傾斜している。また北には炭床川が東西方向に流れている。

また高原町は、古くから天孫降臨の地、神武天皇御降誕の地として認識されており、霊峰高千穂の峰の麓にあることから、古代から宗教的に発展している地域であった。中世において大きな勢力を持つ霧島六所権現のうち、霧島東御在所両所権現社（現霧島東神社）、狭野大権現社（現狭野神社）の他、霧島山中央六所権現社（現霧島峯神社）の別当寺である瀬田尾権現社跡が高原町内にあることから、そのことが窺い知れる。

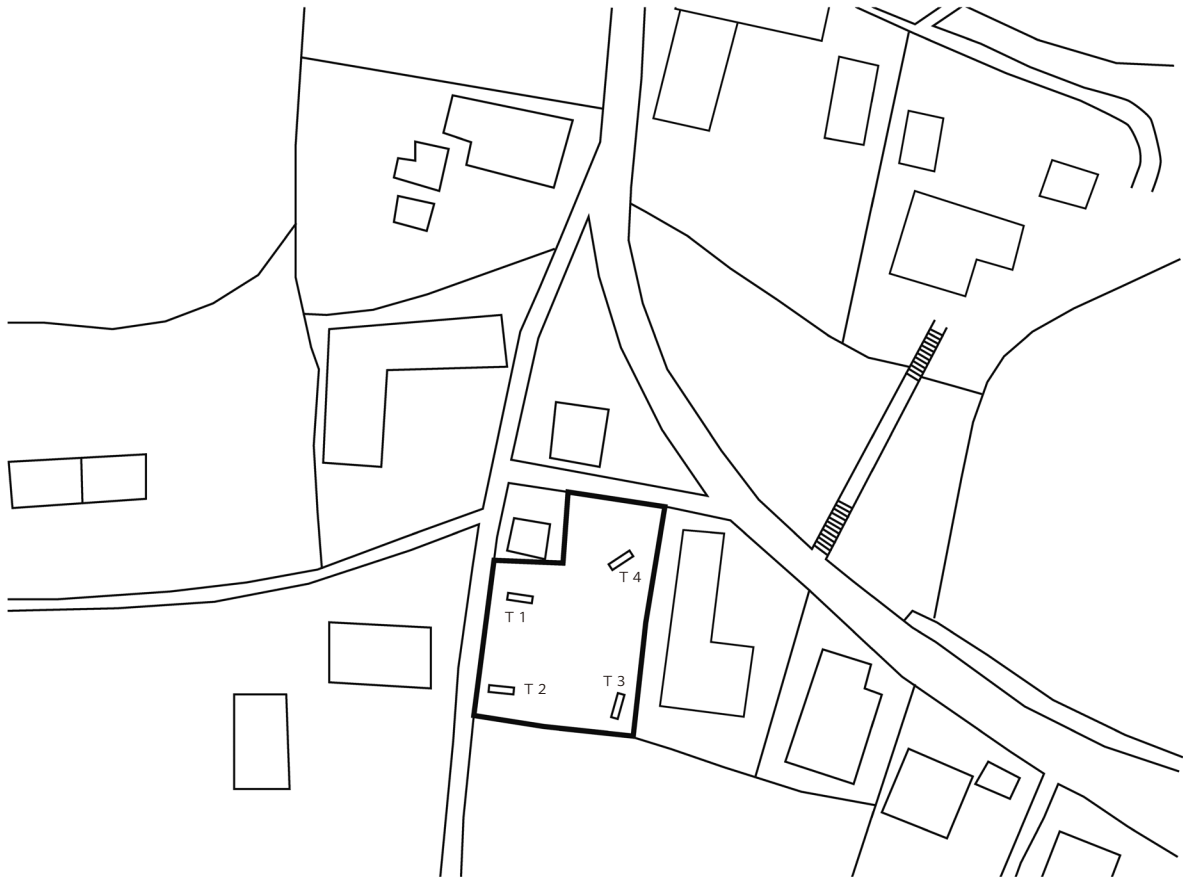
高原町内には多くの遺跡が存在しているが、発掘調査された遺跡の数は多くはなく、当該地周辺で発掘調査が行われたのは川除遺跡と立切地下式横穴墓群のみである。後川内小学校屋内運動場建設に伴い調査された川除遺跡は、古代の畝状遺構等が見つかっている。縄文時代の遺物も少量ではあるが見つかっており、姫島産黒曜石やチャートの石鏃、轟B式土器が出土している。近年、後川内地域での発掘調査が行われており、縄文時代早期後葉を中心とした遺構・遺物が確認されている。



第1図 遺跡分布図



第2図 調査区位置図



第3図 トレンチ配置図

第2章 調査の方法、概要

所在地 高原町大字後川内 1428 番地 1

調査面積 8 m²

調査原因 太陽光発電施設設置

調査期間 平成 31 年 2 月 1 日

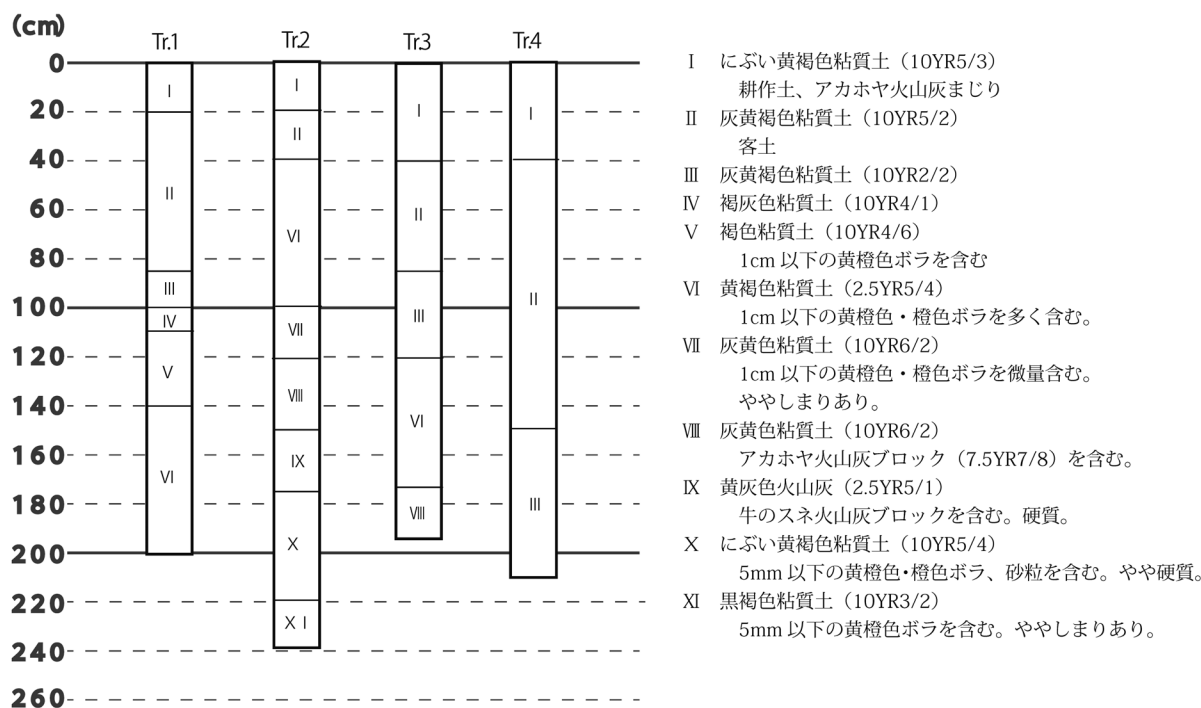
調査後の措置 工事削平

当該地は大迫遺跡に隣接しており、大迫遺跡では詳細分布調査において古墳から平安時代の遺物が採集されている。当該地はもともと畑であり、周辺より一段低い場所に立地している。大迫遺跡に隣接していることから、遺物包含層がやや削平されているが、一部遺物包含層が残存していることを想定していた。調査に当たり、トレンチを4か所設定し、重機にて掘り下げを行った後人力での精査を行った。当初5本のトレンチを設定していたが、トレンチ1～3の土層の状況から、4本のトレンチに変更した。

トレンチを入れて確認したところ、当該地においては北西方向に急傾斜しており、盛土で覆われていた。

盛土の下からはアカホヤ火山灰の二次堆積層が確認されたが、アカホヤ火山灰と牛のスネ火山灰は土層中にブロック状に含まれるのみであった。どの地層からも遺物・遺構は確認できなかった。現在発掘調査を行っている後川内地域では、牛のスネ火山灰下の暗褐色土から縄文時代早期の遺構・遺物が出土している。当該地においては盛土が分厚かったため、安全上、牛のスネ火山灰下にある暗褐色土までは掘削を行わなかったが、火山灰の成層堆積が確認できないほどの急傾斜地であることから、当該地については地形が谷状に深く落ち込んでおり、遺物包含層が存在していないと考えられる。

このことから、大迫遺跡は周知の埋蔵文化財包蔵地範囲内に収まると考えられる。



第5図 各トレンチ土層柱状図



1. 調査区近景（北から）



2. 調査区遠景（大迫遺跡方向から）



3. トレンチ掘削状況



4. トレンチ精査状況



5. T1土層堆積状況(1)



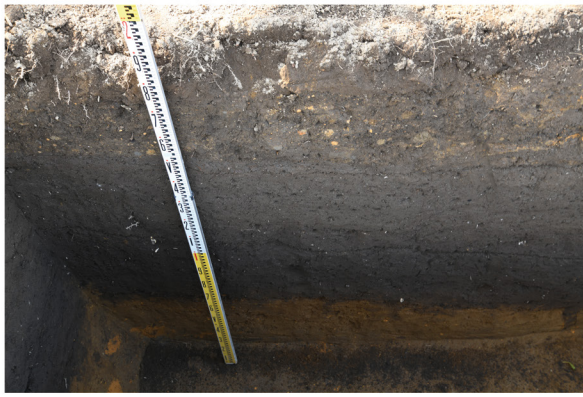
6. T1土層堆積状況(2)



7. T2土層堆積状況(1)



8. T2土層堆積状況(2)



9. T 3土層堆積状況



10. T 4土層堆積状況



11. 調査区内出土（現代）



12. 埋め戻しの様子



13. 転圧の様子



14. 作業状況



15. 作業後の様子（T 1）



16. 調査終了（北から）

報告書抄録

フリガナ	チョウナイイセキ							
書名	町内遺跡VI							
副書名								
巻次								
シリーズ名	高原町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第19集							
編著者名	玉谷鮎美							
発行機関	高原町教育委員会							
所在地	〒889-4412 宮崎県西諸県郡高原町大字西麓392番地							
発行年月日	平成31年3月27日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
大迫遺跡	みやざきけんにしもろかたぐん 宮崎県西諸県郡 たかはるちょうおおあざうしろ 高原町大字後 かわうち 川内1428番地 1	450413	U 23	31° 92' 54"	131° 05' 63"	2019.02.01	8㎡	太陽光発電 施設設置
遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
大迫遺跡	散布地	古墳～古代		なし		なし		
要 約								
<p>大迫遺跡においては詳細分布調査で古墳時代から古代の遺物が採集されている。今回大迫遺跡に隣接する地域での試掘調査を実施したところ、当該地からは遺物・遺構は出土せず、土層の堆積状況から谷状に落ち込んでいる地域であることが分かった。大迫遺跡の範囲は周知の地域内に収まることが予想される。</p>								

高原町文化財調査報告書 第19集

町内遺跡Ⅵ

2019年3月27日

編集・発行 宮崎県高原町教育委員会

〒889-4412 宮崎県西諸県郡高原町大字西麓392番地

TEL(0984)42-1484 FAX(0984)42-3969

印刷 (株)長崎印刷

西諸県郡高原町大字後川内18番地2

